

江南市子ども・子育て会議（第2回）

●開催年月日 平成31年2月13日（水）

●場 所 江南市役所 第3委員会室

●出席者 出席委員 11名

会 長	松 尾 昌 之
副 会 長	沓 名 珠 子
委 員	石 川 勇 男
委 員	今 井 敦 六
委 員	景 山 豊
委 員	笹 瀬 ひと美
委 員	土 井 謙 次
委 員	丹 羽 義 嗣
委 員	藤 井 勝 利
委 員	山 村 孝 幸
委 員	米 嵩 恵 莉 加

欠席委員 3名

委 員	伊 藤 靖 祐
委 員	加 藤 雅 子
委 員	酒 井 さ お り

説明のため出席した職員

こども政策課長	鵜 飼 篤 市
こども政策課主幹	平 野 優 子
保 育 課 長	大 島 里 美
保 育 課 主 幹	向 井 由 美 子
こども政策課副主幹	長 谷 川 崇
こども政策課副主幹	石 田 哲 也

事務職員	保 育 課 主 査	横 井 貴 司
	こども政策課主事	大 橋 潤 一

傍聴人 なし

## 議題

- (1) 第2期江南市子ども・子育て支援事業計画アンケート調査の報告について  
(資料1)
- (2) 平成31年度放課後子ども総合プラン事業計画(案)について(資料2)
- (3) 放課後子ども総合プラン事業(放課後子ども教室)の新規開室について  
(資料3)
- (4) 幼児教育・保育の無償化について(資料4)

## 報告

- ・平成31年4月学童保育所申込状況について
- ・平成31年4月入園申込状況について

## 配布資料

- 資料1 第2期江南市子ども・子育て支援事業計画 アンケート調査報告  
【速報版】
- 資料2 平成31年度放課後子ども総合プラン事業計画(案)
- 資料3 放課後子ども総合プラン事業(放課後子ども教室)の新規開室について
- 資料4 幼児教育・保育の無償化

午後2時00分 開 会

### 1. あいさつ

### 2. 議題

- (1) 第2期江南市子ども・子育て支援事業計画アンケート調査の報告について  
(資料1) PP.1~5

事務局より説明

質疑

会長 江南市の現状について考えるとき、横断的、縦断的に見ることが大事だと思う。5年前に第1回の計画を策定しているのであれば、そこと比較すると、現状どうなのかということがより深く理解できると思うが、横断的に他の市町の状況と比較したときも同様に、江南市はどうなのかということをよりクリアにすることが出来る。他の市町のデータと比較することは可能なのか。

事務局 他市町でも、多くのところが平成 30 年度に同様の調査を行っています。結果に関しては、当市含め、ホームページ等で公表されますので、そういったところで、他市町の状況は確認できると考えています。また、調査項目も、ある程度同様の内容となっていますので、おっしゃられた点も含めて、比較させていただきたいと思います。

委員 4 ページの学童保育に関するアンケートの中で、「対象学年を拡充してほしい」という要望が 6 割近くあるが、実際のところ、範囲を広げていくということは可能なのか、もしくは人間的・金銭的に難しいのか。現状については如何か。

事務局 現在は 4 年生までの受け入れであり、これを 5・6 年生まで広げていくことを検討しています。江南市内には 10 小学校区がありますが、定員をこれ以上増やすことが出来ない学童保育所もあり、現状、全小学校区で一律にということは非常に難しい状況です。藤里小学校では児童数も減少しており、1 年間を通して拡充が可能と思われませんが、布袋小学校や古知野北小学校では、後ほどまた「その他」でご報告させていただきますが、応募者数が非常に多く、一律に実施というのは難しい状況です。

また、学童保育の使われ方として、特に夏休み中の要望が非常に多く、それ以外の期間であれば受け入れ可能な小学校区でも、その期間への対応が難しい学校もあります。そういった学校では、今ある部屋以外で実施場所を検討していく必要がありますが、たとえ確保できても、別の場所で実施する場合、更に支援員が必要になり、運営に係る経費も増えるという状況です。今後については、出来るところから、というのも視野に入れて考えてまいります。

会長 5 ページに「子育てに関して悩んでいること、気になること」のデータがあるが、これを見て非常に気になったことがある。就学前児童への調査で、『自分の自由な時間がもてない』、『子育てにかかる経済的な負担が大きい』、それから『子育てによる身体の疲れが大きい』という回答が挙がってくることは、理解はできる。しかし一方で、子どもを生み育てるということは、ある程度こういった苦労があると想定できたのではないかとも思える。これらのことが負担に感じるという理由には色々あると思うが、もしかすると私達が「子

育て負担」、「子育て負担の軽減」等の文言を使って市民の方にお話することが影響して、子どもを育てるということは負担であるというマイナス面を強調してしまっているのか。

そうではなく、家庭の核家族化や、近隣関係の希薄化により、親が社会の中で孤立してしまった結果と考えることもできる。

両方の見方があると思うが、委員の方々はどのように考えておられるかということをお伺いしたい。

委員 　ただ今お話にあった「子育てにかかる経済的な負担」という部分で、就学前と就学後では当然内容が違ふと思われる。この調査は小学生までが対象だが、中学生になると部活動が始まり、より大きな額のお金が必要となる。回答された方々は、どういうところにお金がかかると思われているのか、その点を知りたい。

会長 　事務局としては如何か。

事務局 　就学前の場合、保護者の方にとって、保育料の負担が大きいと思われまふ。現在、就学前児童の保育料無償化の話も出ていますが、小学校等義務教育にかかる負担と幼稚園・保育園の保育料を比較すると、世帯によって状況は変わりますが、保育料の方が、費用負担という部分では大きいかと思われまふ。就学児童では、年齢が上がるにつれて塾等に通う世帯が増えるため、そういう部分で負担が出てくるのではないかと感じていまふ。

委員 　小学校に払うお金というのは、給食費と学年費ぐらいしかない。高学年になると、多くの子が習い事をしていまふ。学習塾ではなく、例えば、テニス、フィギュアスケート、ゴルフ、サッカー、スポ少など多岐に渡る。その他、多くの児童がスマートフォンを持っており、通信料等がかかってくる。このように、学校に直接関係ないところでの出費は大きいのではないか。むしろ中学校に入って部活動を一生懸命がんばる方が、余分な出費が減るのではないかと思える部分もある。

委員 　学校だけで見れば、公立学校に行った場合、格段の費用がかからず、親としては経済的に楽になるというのは理解できる。一方で今話にあったように、習い事を色々やられている家庭が増えてきて

いると感じる。最近ではいろいろな場面で、公費が使われており、子どもに対しては良い環境が整ってきていると思うが、多子家庭での習い事等への負担に関しては、やや心配な面もある。わが子の為にいろいろな事を経験させてあげ、そこから才能が見つかるという親心は十分理解できるが、先ほど少しお話したが、中学校の部活動の費用は、どの部でも10万円近いお金がかかるということで、費用の負担感は大きいのではないかと。

会長 事務局としては、今の発言を踏まえて、こども政策課の事業として如何か。

事務局 現在の主な事業は、小学校までとなっておりますが、その先も経済的負担は継続していくこととなりますので、その対応を検討することは必要かと考えております。

会長 もう1点、子育ては負担なのかどうかということについて考えを伺いたい。子どもを育てるということは楽しいことばかりではなく、勘弁してほしいと思うことも当然ある。いつもばら色の世界だとは思わないにしても、あまりにも周囲が大変だということを強調し過ぎてしまい、子育ての楽しみ、プラスの部分がどんどん薄れていってしまっているのではないのか。そして一方で、子どもを授かって良かった、大変だけど苦勞のしがいがある、というふうを考える方も当然いるはずである。しかしそう思えない方もいるということは、私達が「負担軽減」というのを強調し過ぎていてのではないかと考えられるが、この点については如何か。

委員 確かに子育てを一生懸命やられるお母さん達もいるが、目の前にいる子どもに振り回されてしまい、こうじゃなきゃいけない、こうじゃなかったという心理的な部分が負担になってしまっている。こういった負担を軽減してあげるためには、子育てに関する色々なお話をきちんとしてあげる場を定期的に設けることで、子どもとどう接していけばいいのか、また、この時期しかできないような、子どもとの向き合い方を意識付けてあげることが重要だと思う。そうすることによって、子育てを負担ではなく、今しかない子どもと向き合える時間と捉えることができるのではないかと。

会長 「子ども・子育て支援」という体制を作り、その事業を前に進めていく仕事を市が行おうとしているが、その「子ども・子育て支援」の中身は、子どもをいかに健やかに育てるかということだけではなく、親の育児に対する疲れや、自分の自由な時間がなくてやりたいこともやれない、ということにも目を向けて、そういったことに呼応するような中身も含めた「子ども・子育て支援」が必要なのではないかという風にも読める。この点については如何か。

委員 同感ですが、学校主催、PTA主催で様々な講演会や教室を企画しても、出席される方はいつも同じであり、本当に出席してほしい方には出てもらえない。これにより格差が広がっている気がしている。

委員 アンケートの数字だけをみると、すごくネガティブな感じがしてしまうが、アンケートの元々の質問が「悩んでいること・気になることは何ですか？」ということなので、逆に言うと、経済的負担は多いが、家族楽しくやっている、という気持ちのご家庭もみえるのではないか。例えばもう1項目設問があり、「それでも楽しい」というような意見があれば、また少し変わってきたのではないかと思う。

会長 普段の生活は問題なく送れているが、何か気になることはないかと聞かれればこれが気になりますよ、というニュアンスに捉えることもできる。悩む水準、気になる水準も色々あり、深刻に捉えなければいけないものもあるが、そうでないものも少なからず含まれているのではないかということも、見落とさないようにしなければならぬと思う。

## (2) 平成31年度放課後子ども総合プラン事業計画(案)について

(資料2) PP.6~7

事務局より説明

質疑

委員 放課後子ども教室実施校は、この5年の間に全校開室するという計画なのか、また共通プログラムについても将来的には10校での実施を視野にいれているのか。

事務局 現在第1期の子ども・子育て支援事業計画の別冊において、放課後子ども総合プランの事業計画があります。最終年度は31年度となっており、そこまでの目標としては、放課後子ども総合プラン共通プログラムの実施校については、現在の4校を7校に拡大していくという目標を掲げております。31年度には7小学校区で学習アドバイザーが中心となって実施できるよう、コーディネーターを交えながら打合せを行い、相談しあえる環境で進めていきたいと考えています。また、今年度実施したものでは、愛知県児童相談センターが主催する出張児童館や、フルート奏者と子ども達とが一緒に音楽を楽しむというプログラムを行いました。その他、地域の方にも入っていただいて、今後もこの事業も進めていきたいと考えています。

放課後子ども教室の10小学校区での実施ということですが、「議題(3)」にあります草井小学校については、2019年度の6月から開室を予定しており、未実施校は、古知野北と布袋北の2箇所となります。基本的には学校の余裕教室を活用して実施する事業となりますので、学校と余裕教室の活用について相談しながら進めていきたいと考えています。

委員 2校については、実施の方向性は持っているが、余裕教室が課題になっているということでしょうか。

事務局 お見込みの通りです。

委員 このプログラムの予定一覧を見ていると、古南小学校は「外遊び」とあるが、余裕教室がないから外遊びになったのか。また、雨の時などはどのように進めていくのか。

事務局 実施については、基本的には放課後子ども教室のプログラムに学童の児童が参加して実施するという形になりますが、古知野南小学校の場合、部屋の大きさから室内での対応が難しいということで、現在外遊びを行っています。雨の日は実施できないので、中止となります。

会長 小学校区が10あり、次年度から草井小学校がスタートすると、放課後子ども総合プラン実施校は10校のうち8校となり、残り2校については余裕教室をどう確保するかということが問題となる。余裕

教室が確保できればスタートとなると思うが、もし余裕教室が確保できない場合、どうしていくのか。

事務局 今年度の当初に、未実施校が3校ということで、今後の児童推計と余裕教室について、教育委員会を通じて学校との調整を行いました。その結果、草井小学校については、北舎1階に低学年図書室があり、近くに昇降口もあるので学校管理上も問題ないということで、調整ができました。古知野北・布袋北両小学校については、同様の教室があったとしても、上階にあるということで、管理上問題があるため、今のところ実施の見込みはありません。5年後までの児童推計を元に学校と相談しており、今後余裕教室が確保できる見通しがつき次第、実施の方向で進めたいと考えています。

委員 古知野東小学校で建てた学童施設のようなものも視野に入れていかなければいけないのではないかと。せっかく教育委員会と子育て支援が1つの課になれたのだから、10年先を見据えていかなければ、せっかく計画を作っても、絵に描いた餅になってしまう。平等な子育てを提供するのであれば、まさに絵を描くのが市の仕事ではないか。

事務局 江南市で昨年度公共施設の再配置計画が策定されており、今後の財政負担を踏まえ、基本的には施設の総量を減らしていくという方向となっています。今お話にあった新規に施設整備を行うためには、基本的な考えとして、施設の複合化もしくは他のものを減築する必要があります。そういったところ踏まえて今後施設整備を進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

会長 それぞれの小学校で共通プログラム「遊びの会」を実施しており、様々なメニューがあるが、これは、「色々なメニューの中で、この子ども達にはこれが必要だ」とか「ここは地域の特徴や子どもの成長を考えると、この学校では違うものが必要ではないか」という議論がなされた上で、こういった形ができているのか、それとも地域の人材の確保が難しく、見つかった中で何とか実施できるものを行っているのか。ここに挙がっているものは、どういった経緯で行われているものなのか。



事務局 基本的な考えとして、「多様な体験」の提供を目的としており、今行っている事業というのは、今いる職員が考えて実施している内容となっています。今後については、様々な遊びを趣味でやられている方などにお願ひし、それを教室で子どもと一緒に体験させてもらう、という形で進めたいと考えており、その中で、特色が出てくる部分があるのではないかと思います。

委員 先ほどの意見も踏まえて、「施設がない」、「場所が無い」というところは、外遊びでは駄目なのか。外で出来るメニューを考えて、全校区に同じサービスをとすることは無理なのか。

事務局 残りの3小学校での実施については、そういったことも含めて進めていきたいと考えています。ただ、古知野南は今外遊びを実施していますが、本当に外遊びだけでいいのかという部分も検討した上で、今後のプログラム実施を進めたいと思います。

(3) 放課後子ども総合プラン事業(放課後子ども教室)の新規開室について

(資料3) PP.8

事務局より説明

質疑

委員より質問なし

(4) 幼児教育・保育の無償化について (資料4) PP.9~11

事務局より説明

質疑

会長 事務局の説明にもあったが、確定ではなく、こういう方向で動いているということでしょうか。

事務局 お見込みの通りです。消費税の増税分を社会保障の充実に充てるということで国も実施に向けて検討しており、今の幼児教育・保育の無償化という部分が充当の対象となっています。実施される内容としては3~5歳の利用料や、住民税非課税の0~2歳児に向けての利用料の軽減ということで、子育て世帯の負担軽減を目的に事業実施をこういった方向で考えている、という試案になります。

委員 10 ページに「認可外保育施設等を利用する子ども達」とあるが、

市内には具体的にどのような施設があるのか。

事務局 江南市内には「わいわいわい」と「磯村託児所」と「のいちごこども園」の3園があります。

委員 障害児通園施設についてはどうか。

事務局 障害児通園施設は『わかくさ園』があります。母子通園施設です。

### 3. その他

事務局より報告

- ・平成31年4月学童保育所申込状況について
- ・平成31年4月入園申込状況について

午後3時31分 閉会